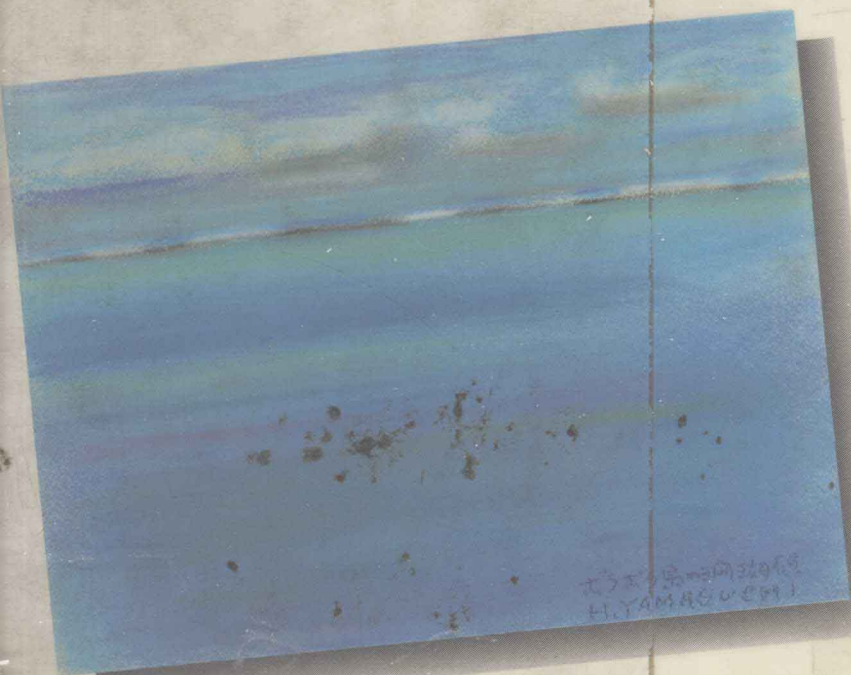


新潮社

酔いどれ 紀行

山口瞳



新潮社

山口瞳

酔いどれ紀行

昭和五十六年九月二〇日 発行
昭和五十六年一〇月二五日 三刷 定価一一〇〇円

酔いどれ紀行^{よきこう}

© Hiromi Yamaguchi,
Printed in Japan, 1981.

著者 山口 瞳 (やまぐち・ひとみ)
発行者 佐藤亮一

印刷 錦明印刷株式会社
製本 新宿加藤製本株式会社

発行所

株式会社新潮社

東京都新宿区矢来町七一番地 (郵便番号 一六二)

電話 (編集部) 〇三―二六六―五四一一

(業務部) 〇三―二六六―五一一一

振替 東京四―八〇八

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信保宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

酔いどれ紀行 ● 改札口

浦安、橋の下の夏

35

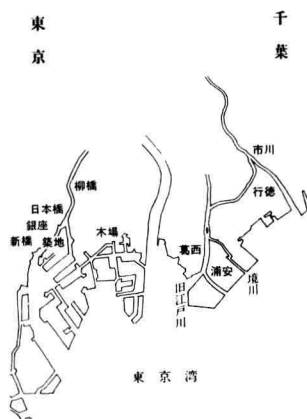
なぜ浦安なのか

柳橋から

小張君の意見

橋の下

* * * *



倉敷、蔦しぐれ

57

相似形の男

倉敷名誉市民

瞑想広場

福山の展覧会

ゆきてかへらざる

* * *

広
島



小樽、海陽亭の雪

パラオの呉れたもの

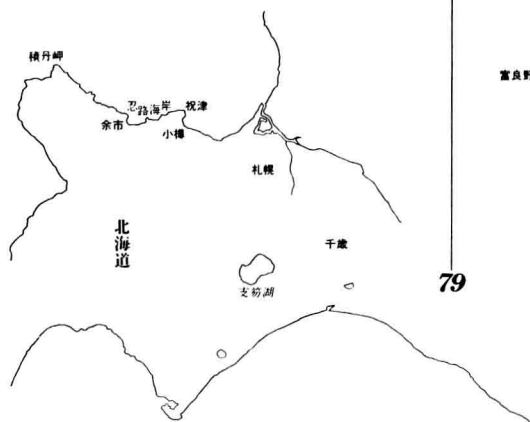
社長の運転

毎日が雪見酒

雪の害について

黄色いハンカチ

* * *



タヒチ、短日の珊瑚礁

103

遠征前夜

空港まで

タヒチの虹

ボラボラ島へ

ニューカレドニアの秋

* * *

サンフランシスコ

○ハワイ

太 平 洋

○タヒチ島

トンガ諸島

オークランド
ニュージーランド

郡上八幡、山峡の憂鬱

135

親切すぎる

大失敗

大失策

地鳴りのように

* * * *



酒田、鶴岡、冬支度

157

上野発の屋列車
庄内のフランス料理
赤木屋の雨
飲み役来たる
旧仮名遣いの町

* * *



横浜、一見英国紳士風

181

Mとの遭遇

女臭い町

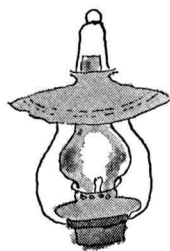
大寒気団

梅に降る雪

* * * *



酔
い
ど
れ
紀
行



長崎、
晴れるや

●大いなる解放感

五月十六日。水曜日。長崎へ向って出発した。午前七時発の新幹線、博多行、ひかり号である。

この頃の若い作家は、「ちよつとスペインへ行ってきた」とか「この夏はニューヨークで暮すつもりである」というふうに書く。私はそうはいかない。かりに、スペインへ行くとすれば、二年ぐらい前から、梅干、醬油、粉ワサビを携行すべきか否かについて悩むことになると思う。

また、いま、東京から長崎へ行くのに、電車を乗り継いで行く人は稀だろう。これは、飛行機で行くと決まったものである。小学校の修学旅行だって飛行機を使う学校がある。「九州一周空の旅」なんていう団体旅行もある。自動車の運転の出来る人は、カーフェリーを利用する。しかる

に、私は、電車で行く。その考えの底に、ナニ、長旅とはいったって、椅子に坐っていれば着いてしまうじゃないか、往復で二日の損といったって、一年三百六十五日のうちの二日じゃないかという思いがある。

長崎に五泊、佐賀の武雄温泉か嬉野温泉に一泊という予定である。

さて、旅行の楽しみとは何であろうか。

私は、旅先きで仕事をするという話は別にして、仕事はすべて片づけてから出発する。そこで、いかに売れないライターであっても、六泊七日の旅であれば、かなりの量を消化しなければならぬ。こまごまとした仕事が多いのである。そうやって、あと二枚書けば終りということになったとき、体がふわっと浮きあがるように感ずるのである。何度もやっていて、いつでも、まったく予期できなかったような、